

第5回 昭島市男女共同参画推進委員会

議 事 要 旨

〔日 時〕 令和5年8月9日（水）18：30～20：10

〔場 所〕 アキシマエンス校舎棟 201 会議室

〔出席者〕

1 委員：柴田邦臣委員長、掛川亜季副委員長、松川靖弘委員、若林とき子委員、長谷部高史委員、牧野愛子委員

欠席委員：小林美和委員、向井翔兵委員

2 事務局

滝瀬子ども家庭部長、曾根女性活躍支援担当課長、渡邊男女共同参画センター担当係長

3 傍聴者 0名

〔配布資料〕

1 進捗状況委員評価及び意見一覧

〔議事要旨〕

1 開会

資料の確認

2 議題

(1) 男女共同参画プラン令和3年度進捗状況調査結果について

目標毎にご説明させていただきます。

目標Ⅲ「あらゆる暴力の根絶と被害者支援【昭島市配偶者暴力対策基本計画】」は暴力の未然防止、早期発見、若年層への啓発、被害者の安全確保と自立支援、ハラスメント防止等が主要施策となっている。こちらは令和3年度と4年度の評価の値が変わらなかった部分である。

若年層への意識啓発と教育の推進No.39デートDV・JKビジネス等防止啓発の女性活躍支援担当課へ委員からの質問をいただいた。東京都警視庁の数値ではあるが、ストーカー相談者数全体のうち20歳未満は9.9%程度となっており、被害者が相談できていないと捉える場合、若年層に向けさらに、相談窓口等の効果的な周知方法等の検討が必要と考える。

No.43市職員へのDV被害者対応については、秘書課、職員課、女性活躍支援担当課で連携し令和3年度から継続して実施しており、受講者が290人から461人に増え、アンケートの回答でも業務に生かしたい、被害者を救いたいということが多く記載され職員の意識の高さが見られた。

ハラスメント被害者に対する相談支援の充実について、No.49秘書課は担当課評価がCであり、コロナ関連相談は実施していたが、通常相談は7月からの開催になり、期間が短かったことや窓口についての啓発手段等に関し課題が残るとしてCとした。

目標Ⅳ「すべての人が安全・安心に暮らせるまちづくり」では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康/権利）やこころの健康、高齢・障害等により配慮を必要とする人、ひとり親家庭等への相談支援、地域防災活動における男女共同参画の推進、都市計画・環境分野における男女共

同参画の推進、地域活動等への男性の参画の推進が主要施策となっている。

No.51 リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する啓発及び情報提供について、秘書課はこちらもC評価とした。秘書課は全般的に啓発手段について苦慮している様子である。女性活躍支援担当では、新規事業として生理用品配付提供サービス機器のオイテルを新たに設置し、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの考え方とともに広報、ホームページ、Twitterで啓発した。

No.62 ひとり親家庭・生活困窮世帯等への就労等相談支援と関係機関との連携では、子ども子育て支援課と女性活躍支援担当が同じ記載内容であるのは、連携して相談支援事業を実施しているためである。取組の内容が、関係機関との連携と情報提供のみであるにも関わらず、担当課評価がaである事理由は、ひとり親世帯等へ向け、平日の日中に来庁できない方の特設個別相談会を夜間に年3回開催したためである。No.63 生活困窮世帯の子どもへの支援は福祉総務課がC評価である。福祉総務課での学習・生活支援の実施は緑会館のみだが、確認したところ社会福祉協議会で把握している子どもの学習支援と居場所づくりのボランティアがあり、(月)(木)(金)(土)はあいぽっく、(水)武蔵野会館、他に不定期で東町自治会館、広福寺、拝島会館等での活動があった。不定期の団体は「Hiあきしま」でも掲載した高校生によるボランティア団体「未来守」の活動である。

No.64.65 防災分野における女性の参画についてはdが2件となった。東京都の地域防災計画の遅れや、コロナ禍の訓練縮小等の影響のためということだが、防災分野の女性参画は注目されている項目でもあり、令和5年度は活動を進めていきたい。

No.67 地域活動に関する相談及び情報提供の充実の福祉総務課に「昭島ボランティアセンター」の設置があり、委員からボランティアセンターの認知状況の質問を受けた。登録団体数は95団体となっており、一定の認知はされていると思われるが、市民意識調査(令和2年2月)では、ボランティア等の活動をしている市民は6.7%。現在は活動をしていないが、今後してみたいと回答している市民は32.5%あり、更なるボランティアセンター等の啓発や支援等の充実が必要と考える。【事務局】

☆事務局の説明の数値が入っている資料を、後日配付していただきたい。【柴田委員長】

◇承知した。【事務局】

目標Ⅲ 7 配偶者等からの暴力(DV)の防止及び被害者支援の充実 ★重点施策

① 暴力の未然防止・早期発見

◆評価：良 No.38 秘書課がパンフレットの配布で担当課評価bというのは、担当課評価が高い、C評価が妥当と思う。前回は話をしたが、DVや暴力、あらゆる暴力の根絶という部分で、せっかくスポーツ振興課があるので、スポーツの現場での暴力、パワーハラスメントを防止する政策があればいいと思っている。私は昭島市サッカー協会のお手伝いをしており、市全体の選抜のサッカーチームを見ている。昭島市は、多摩地域では取り組みが進んでいる方であり、研修会を行い、暴力や暴言をなくそうと進めている。それでも依然として、根性論や暴言暴力がある。それがなぜ良くないかと言うと、今その指導を受けた子供たちが将来また同じことを繰り返す。その連鎖をどこかで断ち切らなければならない。暴力防止の施策を進めていただき昭島市の子供たち、今の子供たちもこれから産まれてくる子供たちも、スポーツを楽しめる環境を整えてあげたいと思うので、そういう施策を実施していただきたい。【長谷部委員】

◆評価：優 【小林委員(柴田委員長代読)】

◆評価：優 内容の改善や効果的な事業展開があるので優とする。【向井委員(柴田委員長代読)】

◆評価：優 職員のDV対応研修の受講数が増え、意識は広がっている。今後はどう市民を拾っていくかというところを掘り下げても良い気がする。【牧野委員】

◆評価：優 倍まではいかないが、研修の受講者が増えていることに対して、市職員がDV被害者対応を意識しているのだと考える。暴力が自分の身近にはないので、本当にこういう事があるのかと思ひ戸惑っているが、多数ある事が分かった。【若林委員】

◆評価：良 事業の内容が想像しづらかったが、担当課評価の点数合計が83.3%ということを考え、良とした。【松川委員】

★評価：優 No.63 秘書課の取り組みは、おそらく様々な事業があり、これに集中して取り組むことができにくいという性質もあると思うが、縦割りではなく、女性に対しての暴力については、女性活躍担当と連携したり、子供に対する事は教育委員会、指導課と連携して実施するような工夫も考えられる。広報について

秘書課は力を入れ取り組むことができるのではないかと思うが、女性活躍担当等の取り組みから優とする。

【掛川副委員長】

☆評価の決定:優 【柴田委員長】

②若年層への意識啓発と教育の推進

◆評価:良 デートDV、JKビジネス等の啓発は若年層向けということで、情報提供の方法は改善が見られていると思う。向井委員のご意見のとおり、X(旧Twitter)は、利用者の年齢層が高いので、インスタグラムやベースの利用を検討いただきたい。ただマンパワーの問題もあるが、今後新しい取り組みを始めるのであれば、そちらの方に広げ、もっと情報提供していただきたい。【長谷部委員】

◆評価:優 【小林委員(柴田委員長代読)】

◆評価:優 積極的な広報展開を評価する。若年層に向けた更なる展開を期待する。【向井委員(柴田委員長代読)】

◆評価:良 実際に若年層にどの位伝わっているか不明である。今後の予定が、情報提供の手段の検討に努めるとなっていて、JKビジネス・デートDVであるが、現在はパパ活も多い、実際かなり気軽に行われている。仕事柄若いお客さんもおり、パパ活は絶対駄目だよと伝えるが、「友達が結構やっている。」と言い、とても気軽である。本当に若年層の危機感という意味では、名称が変わると抵抗感が失われるということもあり、JKビジネスより、パパ活と言うようなところに不安がある。【牧野委員】

◆評価:良 若い年代の様々な行動が全くわからないが、かなり怖いものである。【若林委員】

◆性的被害に遭うだけではなく、写真を撮られてしまったりすることもある。それ以外にも、一度で高額な金額が手に入るため、金銭感覚が崩壊してしまい、普通の一般的な仕事ができなくなるような2次被害もある。非常に危険である。【牧野委員】

◆ポスター、広報等連発して実施しているような印象だが、警察が今一つなのか。【若林委員】

◆評価:可 期待を込めてという事もあるが、辛めに可にした。女性活躍支援担当が担当課ということであるが、生命に関わることなので、被害者を救うため警察や学校教育等と連携する取り組みをしていただきたい。【松川委員】

★評価:良 やはり若年層にはどう啓発すれば良いかと思う。例えば学校現場に啓発周知を依頼したり、紙媒体としてもやれることは色々ある。牧野委員がおっしゃられたような、身近な大人で、たしなめてくれる人がいるということも大事で、地域で居場所があるということもとても大事だと思う。そういう意味では若年層だけではなく、もっと上の層にも啓発し、「やめた方がいいよ」と言ってもらおうという構造も含めて理解が進んでいくと良いと思う。そういう意味で、若年層だけではなく上の世代も含めて啓発を進めていただきたい。【掛川副委員長】

◇事務局 長谷部委員からご意見があったが、インスタグラムの利用については、市の利用制限があり、X(旧Twitter)等で男女共同参画センターからのお知らせをしている。前回委員からお話があったので、ラインでの啓発も開始した。また、女性への暴力被害防止の関係で今年11月に、テーマも親子孫みんなで考える女性暴力防止というセミナーを実施するので、お知りあい等にお声がけいただきたい。ただ内容的に参加者についてはおおむね16歳以上の女性ということになっている。

☆評価の決定:良 今年度の事業にも期待する。【柴田委員長】

③配偶者等からの暴力などによる被害者の安全確保と自立支援

◆評価:良 以前質問をした際、個人情報に関わるため具体的に伝えられる情報が少ないという回答をいただいたが、その中でも徐々に支援体制が充実してきていると感じる。【長谷部委員】

◆評価:優 【小林委員(柴田委員長代読)】

◆評価:良 【向井委員(柴田委員長代読)】

◆評価:優 担当者評価を信じて優にした。【牧野委員】

◆評価:優 適切な対応を図られていると思ったので優にした。地域と連携し、実態を把握し安全確保を図っていただきたい。【若林委員】

◆評価:優 虐待の発見等については、マンパワーでその方々のところに訪問し、様子を聞き判断して調べているのか。虐待を受けていますとか、困っていますと相談できる方は良いが、発信出来ない方を察知して対応するわけだからその家庭のところに訪問し、その生活の様子を見て、これは虐待かという事を調べているのか。【松川委員】

◇基本的にはご本人がご相談にこられることが多いが、子ども家庭支援センターで子供への対応からお母さんもDVを受けていることに気づいたり、子育て世代包括支援センターも子供を通じての支援の中で親のDVに関する相談を促したり、連携をすることが多い。【事務局】

◆被害を受けている方が、被害を受けているとはなかなか言えないと思う。まして子供や障害、認知症のある方に関してみれば、自分が虐待を受けているということを言えない、または、受けていることがわからない場合、マンパワーで対応しなければいけないだろうと思う。相談に行く市民も職員が相談しやすい方、男性が多いのか女性が多いのか等、助けてと言いやすい方が良いという事もあると思う。【松川委員】

★評価：良 プライバシーに関わることもあり決定的なことがあまり伺えないということであったが、しかし政策についての取り組み状況や効果を測定するにあたり、連携をとっているのが実際何件なのか、また、この項目に当たる案件が何件程度あったのかということがわからないと評価しようがないと思う。実際の報告書を拝見すると、連携は進んでいると思われるが、客観的な指標等があると良いと思う。【掛川副委員長】

☆評価の決定：優 【柴田委員長】

④被害者の安全確保のための関係機関の連携

◆評価：良 市職員の研修参加者が増えており、市としての意識の高さが見られる。【長谷部委員】

◆評価：優 【小林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：優 連携が良好に行われている。【向井委員（柴田委員長代読）】

◆評価：優 市が窓口で受け付けた被害者に対して、様々な連携が図れて市に相談すると関係各所にまわしてもらえということか。【牧野委員】

◇そうである。【事務局】

◆評価：優 職員の関心の高さが窺えた。DV早期発見と支援に繋がると良いと思う。【若林委員】

◆評価：良 研修受講者数が増えているが、各所を通じて連携がとれているのかどうかというところは若干疑問がある。【松川委員】

★評価：優 No.45 女性活躍支援は担当課評価がaではなくbという理由がわからなかった。【掛川委員】

◇できる限りの連携を考えており、事が起こる前にと準備連携はしているが、なかなかこちらとしても100%とは言えない部分がありbとした。【事務局】

★もう少し改善の余地があるというところで、自己評価は厳しい目で見ているという気がする。【掛川委員】

☆評価の決定：優 連携の中身が問われているという部分を記載していただきたい。【柴田委員長】

8あらゆる暴力に対する相談支援・関係機関の連携・防止啓発の推進

①性犯罪およびストーカー被害等の暴力防止相談支援

◆評価：良 絶対数として男性から女性に対する暴力やストーカー行為が多いため、そちらを想定されていると思うが、逆のパターンもあり、そちらもケアする体制があれば良いという所を男女共同参画担当も触れておいていただきたい。【長谷部委員】

◇現在、男性の相談窓口も常時実施しており、DV相談として、男性からの相談も受け付けるというPRは実施している。【事務局】

◆確かにホームページにも記載がある【長谷部委員】

☆それも重要なPRである【柴田委員長】

◆評価：優 【小林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：優 積極的な広報展開を期待する。【向井委員（柴田委員長代読）】

◆評価：優 秘書課の被害者からの相談は0件であるが、警察等どこかに繋がれば良いと思う。昭島市で女性、男性それぞれにカウンセリングがあり、窓口が開かれていると感じるので、体感ではあるが窓口が機能しているように思う。市や、警察等どこかに繋がることが大事だと思う。【牧野委員】

◆評価：良 研究して対応してもらっている【若林委員】

◆評価：良 質問だが、広報活動するときの資料に関しては、連携している警察等から情報を持ってきて、資料として啓発しているのか。【松川委員】

◇東京都等の資料を使い市の相談窓口や東京都の窓口を記載し、以前お配りしたDVカード等も作成している。こちらは男性、女性用トイレに設置している。その相談があまり前に出してしまうと、被害者の追跡等もあるので、パンフレットでは、小さくくりの中で女性の相談という形でお示しをしている。【事務局】

★評価：良 長谷部委員のご意見だが、性暴力の被害は男の人でも受けると思う。どうしてもDVは男性か

ら女性への加害というところが意識化されているが、実際は逆もあるし、同性もある、色々な被害のパターンがあり、それに対応する相談もあり、適切な対応がなされているということがわかるような仕組みがより求められると感じる。【掛川副委員長】

☆評価の決定:優 【柴田委員長】

②ハラスメント防止のための啓発・相談支援

◆評価:良 先ほどの事務局からの説明ではハラスメント相談も男性にも窓口を開いているということであるが、ここを読む限りでは、男性にも相談を対応していますよという事が読み取れない。例えばNo.49 秘書課の評価理由は「女性に関するハラスメントの相談はなかった」と書いてあったが、男性からはあったのかという話になる気がするが、それもないと思う。こういう一つ一つに被害者は女性であろうという意識が現れ気になった。【長谷部委員】

◆評価:優【小林委員(柴田委員長代読)】

◆評価:優 No.49 秘書課は担当者評価がCとなった要因は、令和4年4月～6月まではコロナに関するハラスメントのみ対応し、7月からは全ての対応をしたところ3件の相談があり、1年間相談窓口を開設しなかった部分においてCとしたとのこと。コロナ感染症拡大により、通常相談が全て中止となっており、コロナ関連相談だけがその間も開設されていたとのことであった。【向井委員(柴田委員長代読)】

◆評価:優 担当者評価のaが多く相談件数も増加しているが、男性に対しての、ハラスメントもあるが、やはり記載として、女性と書かれているところが多いので、その辺りは一度見直した方が良いと思う。条件付きの優としたい。【牧野委員】

◆評価:優 定期的に防止策を講じ、ハラスメントが生じた場合には、相談体制をとられていることは良いと思う。【若林委員】

◆評価:優 相談件数が増えているので良かったなという安堵も含めた評価とした。これがまた次年度増えることも期待しているが、相談できなくて溜まっていたものが、今年度吹き出したというものなのか、見て行きたい。次年度も件数が増えてほしいと思う。【松川委員】

★評価:良 期待を込めて優とする。若干の件数の増減はあると思うが、また次年度も注目していきたい。研修の効果が出ているのかそうではないのかまだ見極めきれない。【掛川副委員長】

☆評価の決定:優 【柴田委員長】

目標Ⅳ すべての人が安全・安心に暮らせるまちづくり

9 生涯にわたる男女の健康の包括的な支援 ★重点施策

①リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)についての理解の促進

◆評価:良 新規の取り組みもあり、ここ数年中では少しずつだが、具体的な取り組みが進められていると思う。一方でこれもそうだが、リプロダクティブ・ヘルス/ライツは確か男性も関係する内容だと思うので、そちらに対するアプローチも必要。【長谷部委員】

◆評価:良【小林委員(柴田委員長代読)】

◆評価:良 担当評価がcとなった秘書課に関しては、テーマを盛り込んだ事業に取り組んでいただきたい。【向井委員(柴田委員長代読)】

◆評価:良 No.51 秘書課の評価理由、効果、課題と今後の予定は意味が理解ができない。リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関して明らかにして欲しい。【牧野委員】

◆評価:良 リプロダクティブ・ヘルス/ライツを分かって皆さん健康作り教室等に参加しているのか、また、若い女性が相談できるような所があるのかと思う。【若林委員】

◆評価:良 言葉自体が浸透するにはまだまだ時間がかかると思うので、引き続き広報活動を進めていただければと考える。【松川委員】

★評価:良 啓発に関して必ずしもリプロダクティブ・ヘルス/ライツそのものではない取り組みもあるのではないかと感じる。乳がんの健診受診率ということであるが、リプロダクティブ・ヘルス/ライツで子宮頸がんというのはわかる。がんの早期発見は確かに大事なことだが、リプロダクティブ・ヘルス/ライツとしてこの部分を強調して、指標としているのは疑問に感じる。子宮がんは生殖に関わることであり、健康も確かに権利ではあるが、焦点がずれていないのか。秘書課はおそらくリプロのお話ではない形で実施しているので、改善していただきたい。【掛川副委員長】

☆評価の決定:良 【柴田委員長】

②年代や性差に応じた健康づくりの支援

◆評価:優 コロナ禍という状況だが、妊婦の全数面接や乳児家庭の全戸訪問に取り組まれていることに対するNo.54 健康課は、a でも良い。No.57 生活習慣病、介護予防対策の充実は、今後ロコモティブシンドローム(運動器症候群)の問題で重要になってくると思う。No.57 介護福祉課は、おそらく年齢層が高い方々が参加されていると思うが、何かのアンケートで定年退職された方に聞いた際、現役時代に何をもっとケアすればよかったかというアンケートで「歯」という回答が結構多かった。忙しくてそこまでケアできないので、年齢層を少し下げて、そういう方々を対象にしてもいいのかと思う。【長谷部委員】

◆評価:優【小林委員(柴田委員長代読)】

◆評価:良 必要な支援が必要な方にいきわたるよう継続して実施していただきたい。【向井委員(柴田委員長代読)】

◆評価:優 取組の内容やその件数を見る限り、担当者評価はb以上十分にある。【牧野委員】

◆評価:優 相談も参加者も多く、個別相談にも対応され良いと思うので優とする。【若林委員】

◆評価:良 報告では成果が色々書いてあるが、担当課評価自体がbとなっているので、何か改善すべき点があるのだろうと思う。【松川委員】

★評価:良 色々工夫して取り組み、全般的にはすごく頑張っていることは感じられるが、No.57の場合、男性参加率が低いということで、どうしても希望者制にしたときに男性が応募してこないということがあると思う。その辺りの利用の促進という事を考えていただきたい。【掛川副委員長】

☆評価の決定:優 課題がいくつかあったので、その部分を丁寧に報告書に記載していただきたい。【柴田委員長】

③こころの健康に関する支援

◆評価:優 難しいテーマに対して細やかな対応をしていると思う。こころの健康に関する継続相談が増えており、良い傾向だと感じた。【長谷部委員】

◆評価:優【小林委員(柴田委員長代読)】

◆評価:良 対応している職員の方々などの負担軽減等も含め継続的な体制を維持していただきたい。【向井委員(柴田委員長代読)】

◆評価:優 相談件数が増加しているということは、周知されたことや、その支援が良かったということであると判断する。【牧野委員】

◆評価:良【若林委員】

◆評価:優 健康課の評価の理由等に細やかな保健師の相談への対応などが書いてあった。草の根的な相談者に寄り添う活動を続けてほしい。【松川委員】

★評価:優 健康課は自己評価が厳しいと思うので、事業は充実していると思っている。

【掛川副委員長】

☆評価の決定:優 将来性も感じられる。【柴田委員長】

10 配慮を必要とする人に対する支援と多様性を尊重する環境の整備 (NEW)

①高齢障害等により配慮を必要とする人に対する相談支援

◆評価:良 事業は継続されていて、ある程度内容が成熟してきていると思う。一步進んだ新しい取り組みがあれば優にしたいと思っていたが、今回は良とする。【長谷部委員】

◆評価:優【小林委員(柴田委員長代読)】

◆評価:良 事業の継続した実施ができていた。【向井委員(柴田委員長代読)】

◆評価:優 取り組み内容も十分である。課題と今後の予定もきちっと具体的に書いてあり、評価できる。健康課は、他の課より自己評価が厳しいので向上心があると感じ、今後に期待を持っている。【牧野委員】

☆このように各課の自己評価等の意図を汲んでいただきたい。【柴田委員長】

◆評価:優 コロナ禍に於いても、様々なことをやっていただけたと思う。定員オーバーでお断りしている状態というぐらい多く、しっかりとやっていただけたのだろうと思う。【若林委員】

◆評価:良 施策の方向が新しい部分なので、来年度の結果を見て評価したい。【松川委員】

★評価:良 No.59 介護福祉課の地域包括支援センターの認知度が低いのは一体なぜなのかという事について、

対応策を検討し、PRに努めていただきたい。【掛川副委員長】

☆評価の決定：良 益々の今後の取り組みに期待したい。【柴田委員長】

②ひとり親家庭等への支援の充実

◆評価：良 全体的には問題がないと思うが、No.62 子ども子育て支援課と女性活躍支援担当は取組内容や課題と今後の予定について同じである。今後の予定も「継続する」だけで、担当課評価がaであるのはいかがかと思う。一方No.63 福祉総務課や子ども育成課の取り組みは素晴らしい。福祉総務課はb評価であるが、aに上げて良いと思う。【長谷部委員】

◇特設相談の記載が漏れていたものがあつた。内容的は子ども子育て支援課と女性活躍支援担当が連携して事業を行ったために記載が同じになった。記載が漏れていた特設相談であるが、夜間の平日は相談がなかったが、土曜日のニーズは多く、引き続きこちらを継続していき、更に広報の方法も検討していきたいということであつた。【事務局】

◆他課と連携して事業を進めていることを報告書に記載すれば重複している様に見えないのではないか。【長谷部委員】

◆評価：優【小林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：優 市の継続している事業は効果的であると思われる。【向井委員（柴田委員長代読）】

◆評価：優 No.63 福祉総務課の学習支援は緑会館だけではなく増えたのか。【牧野委員】

◇福祉総務課で委託している学習支援は緑会館のみであるが、社会福祉協議会で把握しているものが多数あり、そちらは以前から継続して行われている。【事務局】

◆評価：優 ひとり親家庭への相談の他、支援をする体制が計られており良いと思う。【若林委員】

◆評価：優 担当課評価がbの所もあるが、内容的に充実していると感じる。【松川委員】

★評価：良 No.63 福祉総務課の学習支援の場所が1ヶ所だけということが影響し、良としたが、社協等違う団体は、実施しているということであり、最近居場所事業が大事という事もあり、福祉総務課だけではなく、民間団体との連携や、そこに補助を出す等より一層の取り組みをぜひ期待する。【掛川副委員長】

☆評価の決定：優 優ではあるが課題も残されているのでその旨を記載して欲しい。【柴田委員長】

11 防災・環境分野等のまちづくりにおける多様な視点の反映

① 防災・復興体制のまちづくりにおける女性参画の推進

◆評価：可 コロナ禍において新しい取り組みを始めたことは評価できると思う。この経験を今後起こるかもしれない別の感染症の際にも、役立てていけるように、蓄積した経験を活かしていただきたい。【長谷部委員】

◆評価：可【小林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：可 時期を失することがないような対応が求められている。【向井委員（柴田委員長代読）】

◆評価：可 まだまだ十分とは言えないが、女性の意見を得られたということで、上昇しているとは思われる。【牧野委員】

◆評価：良 地域で色々な所に女性が参加しているので、私は防災の方にも女性の参加はあると感じている。【若林委員】

◆評価：不可 dの評価にもあるように、女性の参画が計られているか分かりづらい。【松川委員】

★評価：可 実施ができなかった事業についての今後の取り組みを期待する。No.64 防災課は女性職員だけでなく、市民の参加の促進を図りたい。【掛川副委員長】

☆評価の決定：可 まだ改善点があり、重要な分野でもあるので、ぜひその重要性も記載していただきたい。【柴田委員長】

② 地域防災活動における男女共同参画の推進

◆評価：良 以前に比べて女性の意見が多く取り入れられている気がする。No.65 防災安全課は女性割合の目標値を超えているので、こちらはa評価でも良いと思う。【長谷部委員】

◆評価：可【小林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：可 コロナ禍ということで、防災訓練など難しかったと思うが、事業を止めることなく継続していただきたい。【向井委員（柴田委員長代読）】

◆評価：可 女性の割合の目標値を超えているので、良にしたい部分であつたが、防災は重要であり、d評

価もあるので今回、可とした。【牧野委員】

◆評価：可 女性の取組が必要と思う【若林委員】

◆評価：不可 避難所運営委員会の委員のうち女性の割合が30%というのは、もう少し上がらないのかなと感じる。女性の意見をどんどん聞くとすると、参加する人数を増やしていかないといけないと思う。【松川委員】

☆できていないものに関して、不可がつくことはいいことである。そこから改善されていくことを望む。

【柴田委員長】

★評価：可 d評価があるというのが大きい。有事というのはいつ起きかわからないという中で、大変かとは思いますが、しっかりと取り組んでいただきたい。【掛川副委員長】

☆評価の決定：可 担当課としてもdをつけるのは、おそらく勇気が要ることだと思うが、正直にということがむしろとても良いと思う。私たち委員もそれに従って、可、不可についての意見をぜひ差し上げたいと思う。①にも関連して、これからも重要度が増していくが、まだ十分には女性の参加がされていない領域だということがわかってきているので、ぜひその部分のコメントを記載していただきたい。【柴田委員長】

③都市計画・環境分野における男女共同参画の推進

◆評価：優 全体的に女性委員の割合が、十分満たされている。【長谷部委員】

◆評価：優【小林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良 可能な限り男女比に偏りが出ないような努力が必要である。【向井委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良 取組の内容等から優でも良いと思ったが、何か改善すべきところがありb評価なのだと思う。

【牧野委員】

◆評価：良 男女の隔たりが無くなり、より多くの委員から意見を聞く取り組みは良いと思う。【若林委員】

◆評価：良 構成する委員の男女比が同じになれば、意見の偏りが無いということなのかという感じはするが、それを主旨として、共同参画の推進ということだから、何か都市計画の中に、男女の偏ったものの考え方が無いようにという意味ということで理解した。【松川委員】

☆ おっしゃる通り数が同じであればそれでいいという問題ではない、中身が重要である。【柴田委員長】

★評価：良 公募委員はかなり改善が進んでいるということだが、関係団体推薦のところを工夫しないと、ばらつきというか、格差が出たままになってしまうと思うので、頑張っていたきたい。【掛川副委員長】

☆評価の決定：良 【柴田委員長】

12 地域活動における男女共同参画の推進

①地域団体・社会団体等への活動支援

◆評価：可 まず目標値だが、男女の待遇、立場が対等になっていると感じる割合が、ともに高まっている中、女性が45から50%、男性が55から60%であり、対等になっていますかという言い方だと、相対的な評価で、片方が上がれば片方が下がるような感じがする。この達成はなかなか難しいのかなと個人的には思っている。他に、ボランティアセンター、社会福祉協議会について届いている声としては、担当の方によってちょっと対応や熱意にばらつきがあり、なかなかやりにくい、取り組みにくいということを聞く。昭島市の問題になるが、他の自治体に比べて、福祉関連の予算が少ない。福祉部関係、社会福祉協議会、ボランティア団体等充実させてほしい。【長谷部委員】

◆評価：優【小林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良【向井委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良 取り組みの効果がわかりにくい。先ほどボランティアをしている市民が6.7%。ボランティアをやりたいというのが30%。例えばこういう方たちを、良い方向に繋げる方が良いと思う。いきなり先頭を切ってリーダーができることは少ないと思うので、市が先頭を切って、うまく運営する方法や、道筋を作ると良いと思う。【牧野委員】

◆評価：良 cはあったが、ボランティアセンターが連携や情報共有で対応されていると思った。【若林委員】

◆評価：可 取り組みの内容がどう反映されていくのかが大切だと思う。担当課の評価の点数合計が55.6%という事なので可とさせていただいた。【松川委員】

★評価：可 ボランティアセンターの団体が多く登録されているようだが、現在ボランティア活動をしている方としてみたいという方のギャップがかなりある。ボランティアをしてみたい方もいるという意味ではまだまだ地域の方々のお力を発揮していただけるための取り組みというのは、もっとできると思っている。

【掛川副委員長】

☆評価の決定:良 委員からもあったが、ボランティアセンターについての改善を考えていただければと思う、コメントにぜひ記載していただきたい。【柴田委員長】

②地域活動等への男性の参画の推進

◆評価:良 団体同士の横の繋がりを、サポートする取り組みは素晴らしいと思うが今こういう団体で問題になっているのが次世代リーダーの育成である。NPO法人を立ち上げたのは良いが、法人をたたくにもお金がかかるらしく、それを含めて次世代の方に入っていたり、引き継ぐのは難しい状況がある。パパサークルのようなグループに入ったことがあるが、子供が大きくなったら卒業して、次の人が入ってこないため、自然消滅ということもある。その辺りをうまくサポートしていただければと思う。【長谷部委員】

◆評価:可 No.69 生活コミュニティ課の昭島ボランティアセンター運営委員会参加の成果が分かりづらい【小林委員 (柴田委員長代読)】

◆評価:良 男性の参画の推進というテーマではまだまだ検討の余地があると思う。【向井委員 (柴田委員長代読)】

◆評価:優 男性の参加を推進していくというのは、男性が参加しづらいから参加していないのではないかと。しかし、現状そんなに問題がないと思うところである。【牧野委員】

◆評価:良【若林委員】

◆評価:良 取り組みの内容に書いてあるが、網羅できているのかという部分があり、繋がりが理解しにくいと感じたが、担当課評価が77.8%ということなので良でよろしいかと判断させていただいた。【松川委員】

★評価:良 サポート対象層を一生懸命増やそうとしたり、努力されている様子はすごく伝わり、ぜひ続けていただきたいと思う。やはり若い世代の参画の話や、男性をどうやって地域の活動に繋げていくかといったときに、現状は単発の講演会に来ていただくというところで、その先に繋がるような取り組みがもう少しあるといいと思う。【掛川副委員長】

☆評価の決定:良 小林委員、松川委員からもご意見のあった、表記の部分で分かりづらい部分を改善いただきたい。【柴田委員長】

3 その他

事務連絡

◇次回の委員会は10月6日(金)開催

総合的な評価および提言のまとめとして、報告書案の内容についてご審議をお願いします。

10月下旬から11月上旬に委員長から市長への報告を予定している。